

— 11 —

5 パイロットランプが「点灯→消灯」したら使用する

- 温度が高ければパイロットランプは点灯しません。

● 使いはじめに、おいがすることがありますが異常ではありません。
おいが衣類にうつることもあります。

ドライアイロンの場合

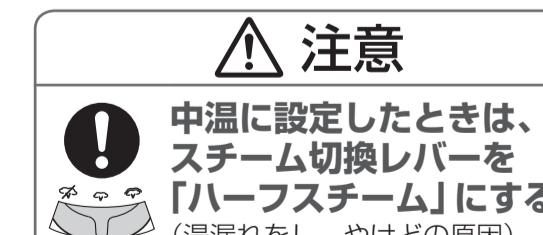
「 ドライ」にする。

- 温度設定が高い温度から低い温度に変えた場合は、パイロットランプが点灯するまでまってからご使用ください。
- タンクに水を入れずに使っていたいでも問題ありません。また、水が入ったままでもスチーム切換レバーをドライにすればドライアイロンとして使用できます。

スチームアイロンの場合

アイロンを水平にし、「 ハーフスチーム」または「 スチーム」にする。

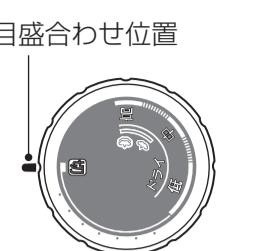
- スチームが出にくいときは、アイロンを水平にし、スチーム切換レバーを2~3回左右に動かしてください。
- タンクの水が少なくなったときは、満水目盛まで水を入れてください。



- ご使用中、アイロンを置くときは、平らなところへ立てて置いてください。
- アイロンを横や逆さまにしないでください。(水漏れの原因)
- 買い上げ後、しばらくは使用中にアイロン(ゴムや樹脂)のにおいがすることがあります、異常ではありません。においが衣類に移ることがあります。

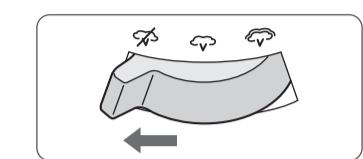
— 15 —

1 アイロンを立てて置き、ダイヤル目盛を切に合わせる



2 タンクに常温の水道水を入れる

- スチーム切換レバーを「 ドライ」にする
(水漏れ防止のため)



- 注水口ふたを開け、お手持ちのカップで水を入れる
水道水以外は入れない
お湯は入れない



- 注水口ふたを閉める



こんな水は入れない!
●ミネラルウォーター ●軟水器の水 ●アルカリイオン整水器
●リネンウォーターなどの香料を含んだ水など

※タンクに水を入れる前に、電源プラグをコンセントへ差し込んでください。

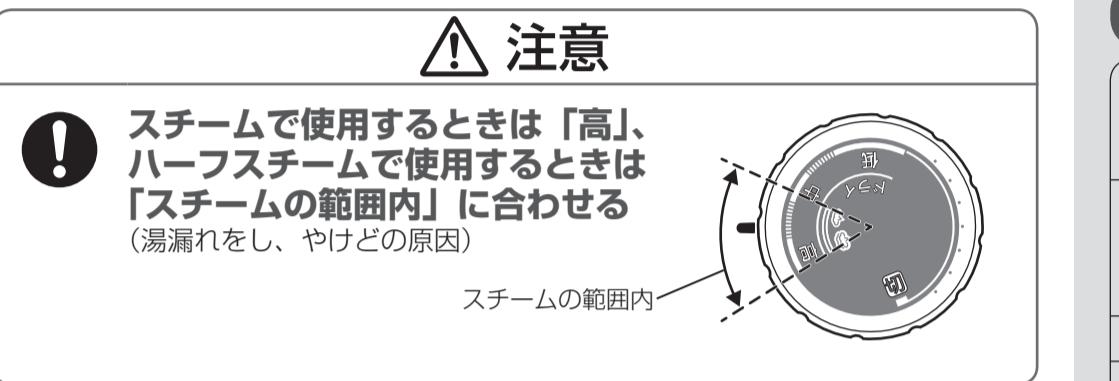
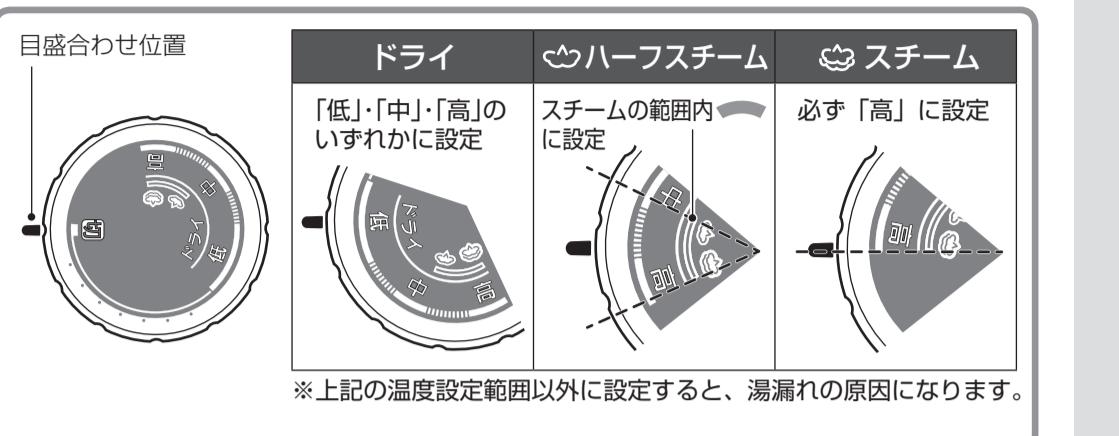
3 電源プラグをコンセントへ差し込む

※電源プラグをコンセントへ差し込んでいる間は、アイロンを放置したままその場を離れないでください。

— 12 —

4 温度を「目盛合わせ位置」に設定する

● 温度を設定するとパイロットランプが点灯します。



スチームで使用するときは「高」、ハーフスチームで使用するときは「スチームの範囲内」に合わせる (湯漏れをし、やけどの原因)

スチームの範囲内

織物専用です
他の目的では使わないで!

● 布地を傷めないために
熱に弱い布地や色の濃い布地には目立たない部分に「ためし
かけ」をし、必要に応じて「あて布」をしてください。

● 布地のテカリを
防止するには
「あて布」をして
ください。



絵表示と温度の関係

織物製品の表示	低	中	高
衣類・布地の種類	アクリル アクリル系 ポリウレタン ポリプロピレン	綿・毛・ナイロン ビニロン・レーヨン(長繊維) キュプラ・アセテート ポリエチル	綿 麻 レーヨン(短繊維) ポリノジック
温度設定位置	低	中	高
かけ面の温度	約 80 ~ 120 °C	約 140 ~ 160 °C	約 180 ~ 200 °C
設定温度になるまでの時間	約 45 秒	約 1 分	約 1 分 30 秒

・混紡の場合は、低い方の織物の温度に合わせてください。

・絵表示以外に取扱いに関する付記表示があれば、その表示に従ってください。

低温のものから高温のものへ

アイロンの温度上昇に応じてかけると、時間のムダがあります。
・高い温度から低い温度に設定すると、低い温度になるまで十数分かかる場合があります。

前もって衣類を分類しておきましょう。

アイロン → ハーフスチーム → スチーム

— 14 —



「CLUB Panasonic」で「ご愛用者登録」をお願いします
家電情報をまとめて登録管理、便利なサービスを利用できます
詳しくはこちら <https://club.panasonic.jp/aiyo/>



保証書付き

このたびはパナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

● 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。

● ご使用前に「安全上のご注意」(2~4ページ)を必ずお読みください。

● 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

パナソニック株式会社 ビューティ・パーソナルケア事業部

〒525-8555 滋賀県草津市野路東2丁目3番1-2号

© Panasonic Corporation 2011-2019

S0611-30419

i8200-6B04D

5 パイロットランプが「点灯→消灯」したら使用する

● 温度が高ければパイロットランプは点灯しません。

ドライアイロンの場合

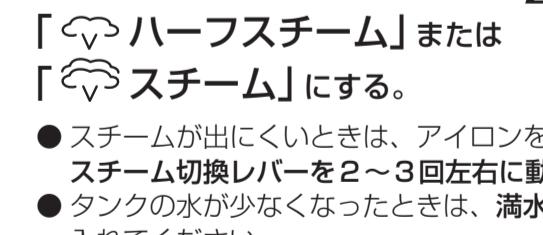
「 ドライ」にする。

- 温度設定が高い温度から低い温度に変えた場合は、パイロットランプが点灯するまでまってからご使用ください。
- タンクに水を入れずに使っていたいでも問題ありません。また、水が入ったままでもスチーム切換レバーをドライにすればドライアイロンとして使用できます。

スチームアイロンの場合

アイロンを水平にし、「 ハーフスチーム」または「 スチーム」にする。

- スチームが出にくいときは、アイロンを水平にし、スチーム切換レバーを2~3回左右に動かしてください。
- タンクの水が少なくなったときは、満水目盛まで水を入れてください。



- ご使用中、アイロンを置くときは、平らなところへ立てて置いてください。
- アイロンを横や逆さまにしないでください。(水漏れの原因)
- 買い上げ後、しばらくは使用中にアイロン(ゴムや樹脂)のにおいがすることがあります、異常ではありません。においが衣類に移ることがあります。

— 15 —

6 ご使用後は

お手入れ

※電源プラグを抜き、よく冷えてから!

■かけ面に付着したのりを取りときは

- スチーム切換レバーを必ず「 ドライ」にする
(水漏れ、腐食防止のため)



- 目盛合わせ位置を切にする



- 電源プラグをコンセントから抜く



- かけ面を上にして、注水口から水を捨てる



- 安全な場所に必ず立てて収納する



※ご使用にならない場合は、必ずスチーム切替レバーを「ドライ」にしてください。「スチーム」または「ハーフスチーム」の位置にあると、タンクに残った水が漏れるおそれがあります。

※ご使用にならない場合は、必ずスチーム切替レバーを「ドライ」にしてください。「スチーム」または「ハーフスチーム」の位置

安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、区分して、説明しています。

■警告 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を図記号で説明しています。(次は図記号の例です)

■してはいけない内容です。

■実行しなければならない内容です。

火災や感電、けがを防ぐために

■警告

■電源プラグ・コードは

●傷つけない、加工しない、無理に曲げない、ねじらない、引っ張らない、重いものを載せない、束ねない、熱器具に近づけない。
(やけど・感電・ショートによる火災の原因)
→コードやプラグが破損した場合は、販売店に修理を依頼してください。

●熱いアイロンにコードを巻き付けてください。
●束ねたままで使用しない。
●ぬれた手で抜き差ししない。
●コードや電源プラグが傷んでいるときや、コンセントの差し込みが緩いときは、使用しない。
→販売店へ修理を依頼してください。
(火災・感電のおそれ)

— 2 —

■警告

■アイロンは

●安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助が必要とする人(子供を含む)には、単独で使用させないようにする。
製品で子供が遊ばないようにする。
(事故やけがの原因)

●近くで可燃性ガス(ベンジンなど)が発生するものを使用しない。
(火災の原因)

●絶対に分解・修理・改造しない。
(発火・異常動作によるけがの原因)

●めれた手で使用しない。
(感電やショートによる火災などの原因)

●電源プラグをコンセントに差し込む際は、放置したままその場を離れない。
(火災の原因)

●落とさるなど、アイロンに損傷や水漏れがある場合は使用しない。
(発火・感電のおそれ)
→販売店へ修理を依頼してください。

●定期的にプラグを乾いた布でふく。
(ほこりがたまると湿気などで絶縁不良となり、火災の原因)

●延長コードは使用せず、定格 15 A・交流 100 V のコンセントを単独で使う。

●電源プラグは根元まで確実に差し込む。
(火災・感電のおそれ)

●定期的にプラグを乾いた布でふく。
(ほこりがたまると湿気などで絶縁不良となり、火災の原因)

●異常・故障時には直ちに使用を中止し、電源プラグを抜く
(発煙・発火・感電のおそれ)

●電源プラグや本体などが異常に熱かったり、変形・変色している。
●コードを動かすと、通電したり、しなかつたりする。
●焦げくさいにおいかがする。
→販売店へ点検・修理を依頼してください。

●定期的にプラグを乾いた布でふく。
(ほこりがたまると湿気などで絶縁不良となり、火災の原因)

●高温部(かけ面・カバー・タンク下部)に手を触れない
(やけどの原因)

●アイロンを傾けたり、前後にはげしく動かさない
(湯漏れをし、やけどの原因)

●スチームで使用するときは「高」、ハーフスチームで使用するときは「スチームの範囲内」に合わせる
(湯漏れをし、やけどの原因)

●給水は、常温の水道水を使う
(製品の破損によるやけどや、衣類を汚す原因)

●アイロンは平らで安定した場所で使用し、安定した所に立て置く
(毛足の長い敷物や不安定な所に置くと、転倒で敷物の損傷、けが・やけどの原因)

●湿った衣類(霧吹きした衣類)は、ドライでアイロンかけをする
(スチームでアイロンかけをすると湯漏れによるやけどの原因)

●コードを動かすと、通電したり、しなかつたりする。
●焦げくさいにおいかがする。
→販売店へ点検・修理を依頼してください。

●定期的にプラグを乾いた布でふく。
(ほこりがたまると湿気などで絶縁不良となり、火災の原因)

●スチームでアイロンかけをする
(湯漏れをし、やけどの原因)

●アイロンをかけたままアイロンかけをしない
(アイロン内部に入り、ショートの原因)

●反対方向に持って、アイロンをかけない
(ボタンの誤操作によりスチームや湯漏れによるやけどの原因)

●市販のかけ面アタッチメントを取り付けて使わないで!
(誤作動の原因)

●リネンウォーターなどの香料を含んだ水をタンクに入れないので!
(本体破損の原因)

●アイロン本体に

●水をかけないので!
蛇口から直接給水しないで!

(故障の原因)

●アイロン内部にピンや針金などを入れないで!

(故障の原因)

●アイロン本体に

●市販のかけ面アタッチメントを取り付けて使わないで!

(誤作動の原因)

●アイロンをかけるときに

●高級品や特殊加工品などには目立たない所にためしがけを!

●特にご注意
ベルベット、アクリルナイロン、カシミヤなど

●織物製品以外(皮革製品など)に使用しないで!

(傷付きの原因)

●ファスナー・ボタン等の固いものにアイロンかけをしないで!

(傷付きの原因)

●アイロンをかけるときに

●織物製品以外(皮革製品など)に使用しないで!

(傷付きの原因)

●アイロンをかけるときに

●織物製品以外(皮革